

## 第3章 基本的な考え方

市原市の図書館サービスの総合的な向上を図るためには、市内の全ての読書施設が共通した理念と目標を持ち、必要に応じて連携しながら、積極的に各々の事業を展開していく必要があります。

よって、市として目指すべき基本理念及び基本目標を次のとおり定めます。

### 1 基本理念

「改訂市原市総合計画」では、誰もが生涯を通して幸せを実感できる社会環境に支えられた、やすらぎのあるふるさと、活気あるまちを目指し、「やすらぎと活力」を基本理念として掲げています。

そこで、図書館も市民の役に立ち、満足してもらえる施設として、また、市民の憩いの場として、市民のやすらぎと活力の源になることを目指します。

一方、図書館は、時代の<sup>すうせい</sup>趨勢や市民のニーズに応じてその形を変えていきます。図書館は、市民とともに進化し成長していくものです。

以上の考えに基づき、基本理念を次のとおり定めます。

**やすらぎと活力をささえ 市民とともに成長する図書館**

## 2 基本目標

基本理念に基づき、目指す機能やサービスの向上を実現するため、次の4つの基本目標を設定して、具体的な取り組みを進めます。

### 基本目標Ⅰ いちはらの情報拠点として、市民に役立つ図書館

社会情勢の変化や個々の趣味や志向、価値観の多様化に対応し、市民が必要とする資料や情報を的確かつ速やかに提供します。

- 図書資料・視聴覚資料の整備充実や生涯学習の支援教材である視聴覚ライブラリーの利用促進を図ります。また、電子書籍への対応等について調査・検討を行います。
- レファレンス記録や調べ方案内、データベースなど、調査・研究への支援のためのレファレンスツールの充実を図ります。
- 市の関係部署や関係機関と協力関係を築きながら、地域資料の充実やビジネス支援情報、医療・健康情報など、特色を打ち出した情報サービスの提供に努めます。
- 所蔵資料や図書館ホームページなど、既存の図書館の資源を有効活用して、各種の情報発信に努めます。

### 基本目標Ⅱ 市民がつどい、ともにふれ合い、親しむ図書館

各種のイベントや展示、講演会などを通して、市民が気軽につどい、楽しみ、学ぶとともに、読書ボランティアとの連携や事業への市民参画など、市民との交流や協働を進めます。

- 各種講座やイベント等を開催し、図書館の利用促進を図ります。
- 市民が読書ボランティア活動を行うための場所の提供や、各種企画展示の実施など、図書館の設備やスペースの有効活用を図ります。
- 図書館業務に関する市民ボランティアの募集や育成を行い、市民との交流や協働を図ります。

### 基本目標Ⅲ 地域や学校等との連携をすすめ、豊かな心をはぐくむ図書館

公民館・コミュニティセンターや幼稚園・保育所・学校等との連携を進め、読書活動を通じて、各年齢層における豊かな心の醸成を図ります。

- 平成22年度策定の「市原市子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき、学校、幼稚園・保育所（園）、地域の読書ボランティア等と連携して、子どもの読書活動の推進に取り組みます。
- 企業や団体が主催する、市民に役立つ講座等への協力を図ります。

### 基本目標Ⅳ すべての市民にやさしい図書館

すべての市民が快適に利用できるよう、各種のサービスや読書環境の向上を図ります。

また、研修などを通じて図書館職員等の資質向上に努め、高い水準のサービス提供を図ります。

- 障がい者や子育て世代、外国人、高齢者などの個々のニーズに対応したサービスの向上を図ります。また、事情により読書施設への来館が困難な人に対するサービス方法の検討を行います。
- 館内の設備や読書環境、また、カウンターワークやフロアワークなど、来館する全ての人に関わるサービスの向上を図ります。
- 研修などによる図書館職員等の資質向上と業務水準の向上を図ります。

### 3 計画の指標

図書館サービスの現状と課題を踏まえ、あるべき図書館の姿を実現するため、各基本目標に沿った「成果指標」を定めます。

取り組みの達成度を測る成果指標として、対象をどのような状態にし、どのような結果にするか、わかりやすく、測定可能で継続的に把握できる指標を設定します。

#### 基本目標 I (情報提供)に関する指標

##### 指標 1 市民一人当たりの蔵書冊数

情報提供において最も基本的なサービスとなる図書資料の充実度を測る指標です。新たな資料の整備とともに、適正な廃棄を行いながら、蔵書規模の向上を図っていきます。

蔵書の増加冊数（購入数＋寄贈数－廃棄数）と人口の伸びを予測して、目標値を算出します。

	22年度		27年度目標値
市民一人当たりの蔵書冊数	3.7冊	→	3.9冊

※ 蔵書冊数＝中央図書館・公民館図書室・コミュニティセンター図書室の合計冊数

##### 指標 2 市民一人当たりの年間貸出点数

図書館の資料がどのくらい市民に利用されたのかを測る指標です。

新鮮で魅力のある資料や課題解決の役に立つ資料等の整備を行い、利用の向上を図っていきます。

貸出冊数が約5%増加することを目指し、人口の伸びを予測して、目標値を算出します。

	22年度		27年度目標値
市民一人当たりの年間貸出点数	6.2点	→	6.4点

※ 貸出点数＝中央図書館・公民館・コミュニティセンターの合計点数  
(内訳：図書資料・視聴覚資料・録音図書)

### 指標3 年間のレファレンス件数

市民の抱える課題の解決や調査・研究、各種の情報提供に寄与するレファレンスに関する指標です。

レファレンスサービスの一層のPRや、レファレンスに役立つツールの充実を図りながら、件数の増加を図っていきます。

レファレンス件数が約15%増加することを目指し、目標値を算出します。

	22年度		27年度目標値
年間のレファレンス件数	8,732件	→	10,000件

※ レファレンス件数=口頭・電話・文書・メールによる受付及び回答件数(中央図書館)

### 指標4 年間のホームページアクセス件数

図書館のホームページを通じて発信する各種情報の利用度・認知度を測る指標です。

市民の興味や関心に合わせた情報提供ができるよう、コンテンツの見直しや充実を図るとともに、資料の検索や予約、延長機能等の活用についてPRを図ります。

現在までの水準を保ち、安定的な利用を図るための目標値を設定します。

年間のホームページアクセス件数	年間アクセス件数	20万件以上
-----------------	----------	--------

※ アクセス件数=トップページからのアクセス以外は件数としてカウントされない

## 基本目標Ⅱ(図書館利用)に関する指標

### 指標5 年間の入館者数

資料の提供やイベントへの参加、レファレンスサービスなど全てを含んだ図書館利用の度合いを測る指標です。

図書館資料や読書活動に関する効果を限定的に測るため、中央図書館の入館者数を指標とします。

1日平均入館者数が約2.5%増加することを目指し、目標値を算出します。

	22年度		27年度目標値
年間の入館者数	502,659人	→	515,000人

※ 入館者数=中央図書館の入館者数

**指標6****年間のイベント等参加者数**

図書館が主催する各種イベント等の効果を測る指標です。

基準となる事業の設定と経年変化による効果を測るため、中央図書館の主催事業を対象とします。

年間参加者数が約10%増加することを目指し、目標値を算出します。

	22年度		27年度目標値
年間のイベント等参加者数	3,219人	→	3,500人

※ イベント等参加者数＝中央図書館主催事業の参加者数

**基本目標Ⅲ(学校等との連携)に関する指標**

「市原市子ども読書活動推進計画（第二次）」では、学校等と連携した子どもの読書活動の推進に関する総合的な評価を測るものとして、4つの指標を定めています。

これは、「市原市図書館サービス計画」における基本目標Ⅲの効果を測る指標としても適していることから、指標7から指標10として位置付け、図書館として目標達成に向けた取り組みを進めていきます。

**指標7****1ヵ月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合**

小学生・中学生における読書活動の“広がり”の度合いを測ります。

1ヵ月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合			
	22年度		27年度目標値
(小学生)	1.4%	→	1.0%
(中学生)	15.4%	→	12.0%

**指標8****1ヵ月当たりの児童・生徒の読書量**

小学生・中学生における読書活動の量的な度合いを測ります。

1ヵ月当たりの児童・生徒の読書量			
	22年度		27年度目標値
(小学生)	8.4冊	→	10.0冊
(中学生)	3.3冊	→	4.0冊

**指標 9****保護者やボランティアの協力体制づくりを行っている中学校の割合**

中学校におけるボランティア等との協力体制づくりの進捗の度合いを測ります。

保護者やボランティアの協力体制づくりを行っている中学校の割合		
	22年度	27年度目標値
(中学校)	23.8% (5校)	→ 38.1% (8校)

**指標 10****図書館等と連携している小中学校の割合**

小中学校と図書館(公民館・コミュニティセンター図書室含む)との連携の度合いを測ります。

図書館等と連携している小中学校の割合		
	22年度	27年度目標値
(小学校)	87.0% (40校)	→ 100% (46校)
(中学校)	28.6% (6校)	→ 100% (21校)

**指標 11****館外における図書・読書普及活動の年間実施回数**

学校等への出張おはなし会・ブックトークや、学校図書館ボランティアへの研修講師の派遣等、館外における図書・読書普及活動の実施回数を、連携の度合いを測る指標とします。

対象は、中央図書館職員及び今後組織化を予定しているボランティアによる実施回数とします。

	22年度	27年度目標値
館外における図書・読書普及活動の年間実施回数	41回	→ 50回

※ 年間実施回数＝中央図書館職員＋中央図書館派遣ボランティアによる実施回数

## 基本目標Ⅳ(サービス向上)に関する指標

### 指標 12 利用者アンケートにおける満足度

館内環境や各種サービスなど図書館運営に関する利用者の満足度を測る指標です。毎年度、利用者を対象にしたアンケート調査を行い、市民ニーズの継続的な把握とサービスへの反映を図っていきます。

すべての調査項目に関して常に高い満足度を維持することを目標とします。

利用者アンケートにおける満足度	各項目に関して毎回 <b>85%</b> 以上
-----------------	-------------------------

※ 利用者アンケート＝中央図書館の入館者に対して実施

### 指標 13 市民一人当たりのサービス効果

貸出冊数をもとに、図書館のサービス効果を数値化した指標です。

利用者がすべて自費で購入して読んだと仮定して、その額から図書館の必要経費を差し引いたものが利用者の利益と考えられます。これを人口で割ったものを市民一人当たりのサービス効果とし、以下の式で表します。

$$(\text{貸出冊数} \times \text{資料平均単価} - \text{図書館費}) \div \text{人口} \text{ (円)}$$

サービス効果(円)が約3%増加することを目指し、目標値を算出します。

	22年度		27年度目標値
市民一人当たりのサービス効果	7,936円	→	<b>8,200円</b>

※ 図書館費＝中央図書館分(運営の全経費)＋公民館・コミュニティセンター分(図書購入に関する経費)

## 4 計画の体系

### 基本理念

やすらぎと活力をささえ

市民とともに成長する図書館

### <基本目標>

I いちはらの情報拠点として、  
市民に役立つ図書館

### <取組の指針>

- (1) 資料の充実
- (2) レファレンスサービスの充実
- (3) 特色を打ち出した情報サービス
- (4) 図書館資源の有効活用

II 市民がつどい、ともにふれ合い、  
親しむ図書館

- (1) 図書館の利用促進
- (2) 図書館事業に関する市民との協働

III 地域や学校等との連携をすすめ、  
豊かな心をはぐくむ図書館

- (1) 子どもの読書活動の推進に係る連携
- (2) 企業等との連携

IV すべての市民にやさしい図書館

- (1) 特定の利用者へのサービス
- (2) 様々な利用者へのサービス